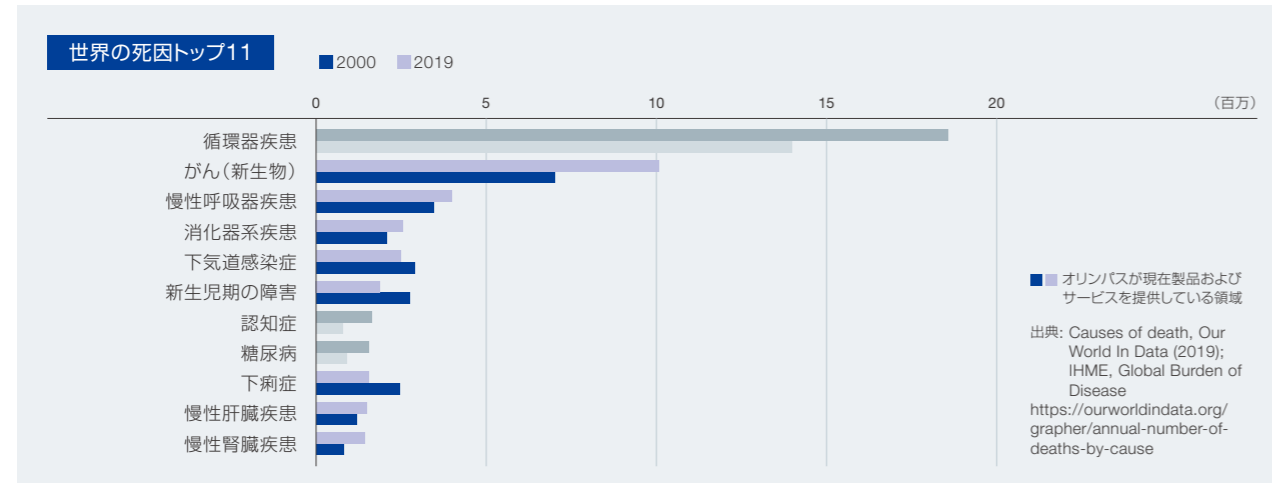


# Global Healthcare Data

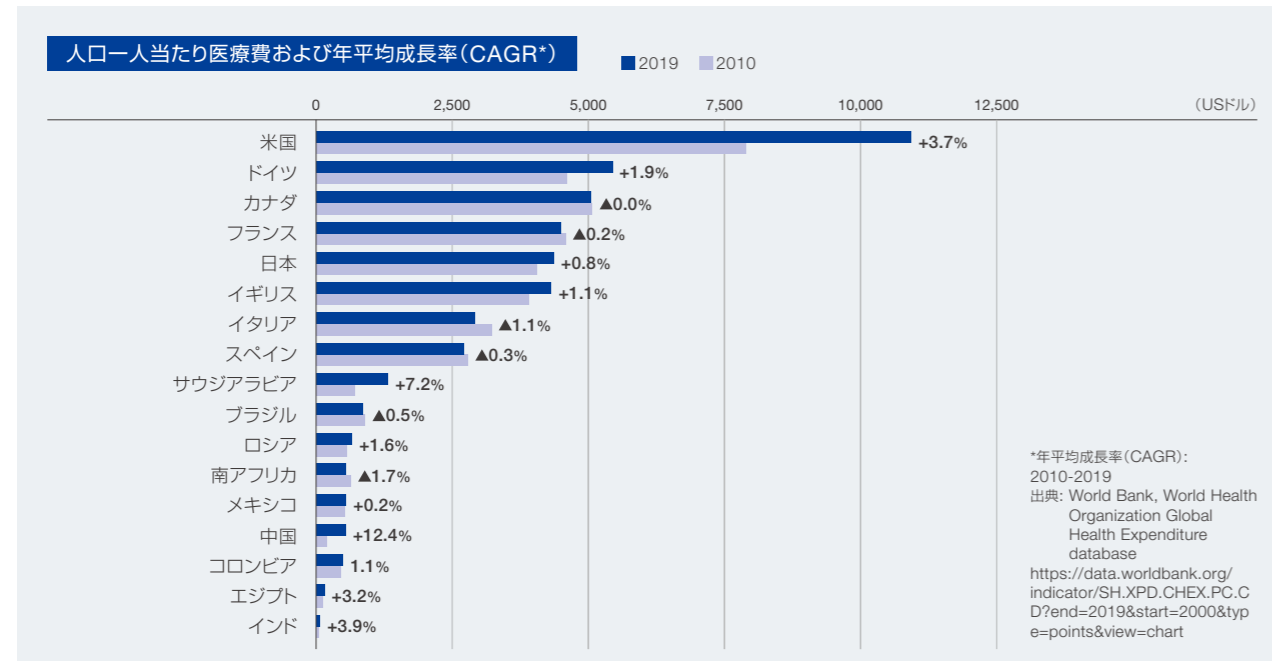
## 疾患

- がんは世界最大の死因の一つであり、2000年から2019年にかけて44%増と急速に増加しています。
- オリンパスでは、多くの疾患において、患者さんのアウトカムを向上するためにソリューションを提供しています。



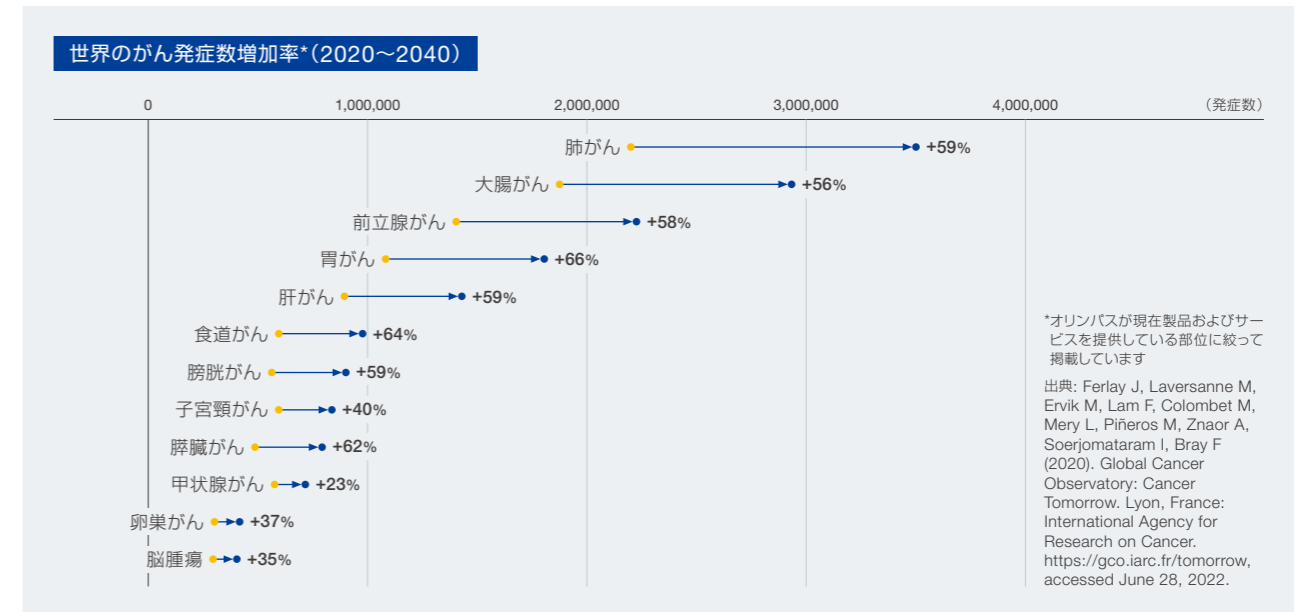
## 医療費

- 米国は、一人当たりの医療費が突出して多く、2010年から2019年にかけて、年平均成長率(CAGR)で3.7%増加しています。中国の一人当たりの医療費は、12%以上のCAGRで大幅に増加しています。
- オリンパスは、医療従事者を対象とした教育支援等を通じて、医療機会の幅広い提供に貢献しています。

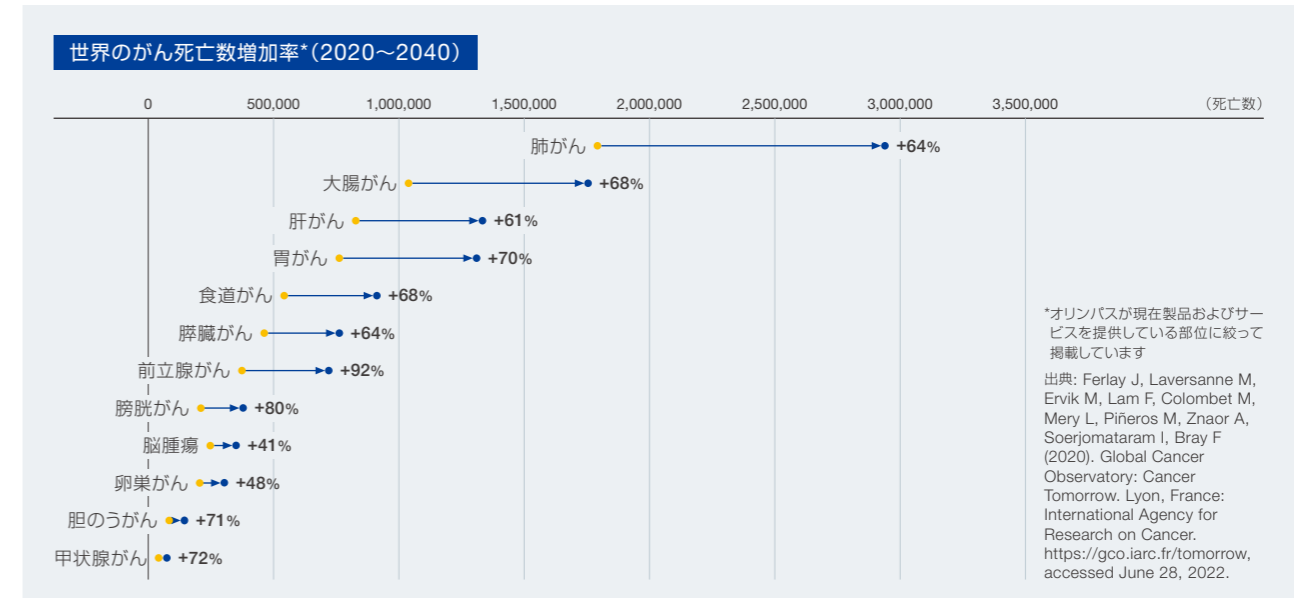


## がん

- がんの発症数を部位別に見ると、多い順に肺がん、大腸がん、前立腺がん、胃がん、肝がんの順になっており、長期的に見てもそれぞれ大幅に増加する見込みです。増加率が最も高いがんは胃がんであり、食道がん、膵臓がん、膀胱がんが続きます。
- オリンパスは、対象とするがんにおいて、医療水準の向上により、患者さんのアウトカム改善に貢献していきます。

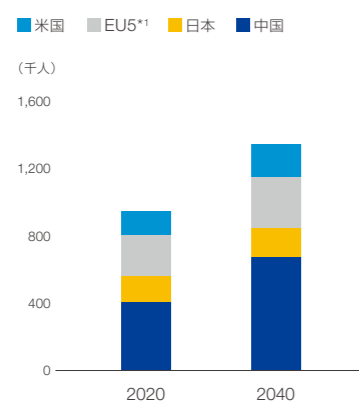


- がんの死亡数を部位別に見ると、多い順に肺がん、大腸がん、肝がん、胃がん、食道がんの順になっており、長期的に見ても上位5部位は変わらない見込みです。前立腺がんと膀胱がんは、2020年から2040年の増加率が非常に高く、それぞれ92%、80%の増加率となっています。



消化器科

大腸がん発症数(地域別)



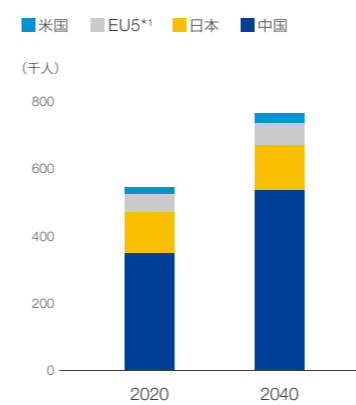
- 大腸がんは、発症数が多いがんの一つです。家族歴や遺伝歴などのリスクによって増加することが予想されますが、大腸がんのほとんどは散発性(年齢とともに増加)です。
- 大腸がんは、長い自然経過をたどって進行するがんです。消化器内視鏡のリーディングカンパニーであるオリンパスは、大腸がんに対する意識を啓発し、早期発見に貢献することを使命として、その一翼を担っています。

大腸内視鏡件数

米国における増加率  
(2009年~2019年)\*2

+22%

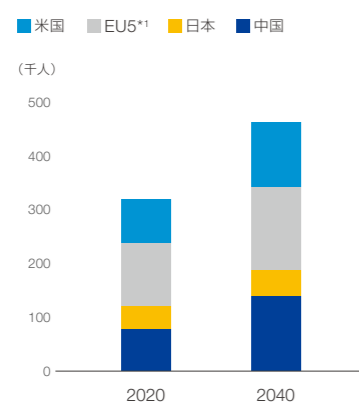
胃がん発症数(地域別)



- 胃がんは、特に高齢の男性において、世界で最も多く発症し、死亡者数が多いがんの一つです。また、国別に見ると、特に中国で発症者数が非常に多いのが特徴です。
- 胃がんの発症率と死亡率は地域によって大きく異なり、食事やヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)感染の有無ががんの発生に大きく関わっています。
- オリンパスは、胃がんの診断・治療に使用される消化器内視鏡のシェアNo.1です。胃がんは、早期に発見された場合、内視鏡での治療が一般的であり、外科手術と比較し、入院期間の短縮や早期の社会復帰に貢献する利点があります。

泌尿器科

膀胱がん発症数(地域別)



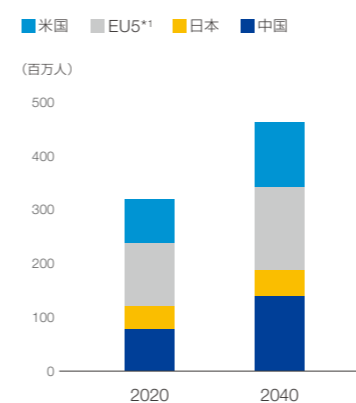
- 膀胱がんは、発症数が多いがんの一つです。その高い発症率と、局所治療にもかかわらず何度も再発・進行しやすい性質から、医療サービスを供給していく中で、世界的に大きな負担となっています。
- オリンパスは、筋層非浸潤性膀胱がん(NMIBC)の検出と切除の改善による膀胱がんの再発抑制、アウトカムの向上、ペイシェント・エクスペリエンス(患者経験価値)の向上に注力しています。

膀胱内視鏡件数

米国における増加率  
(2009年~2019年)\*2

+10%

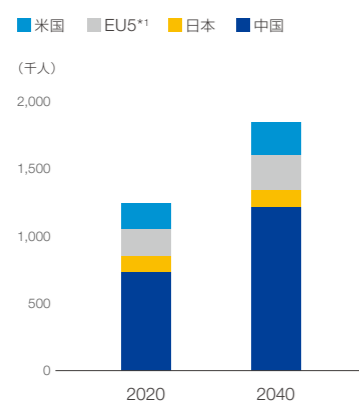
前立腺肥大症(BPH)有病者数(地域別)



- 前立腺肥大症(BPH)は、51~60歳の男性の50%(未診断を含む)が発症しているといわれています。\*3 症状は軽度から始まることが多いものの、一般的には時間とともにさらに進行し、症状に応じて異なる種類の治療が必要となります。なお、BPHの症例のうち、43%が軽度、38%が中度、19%が重度です。
- オリンパスは長年にわたり、切除、蒸散、核出の治療において、電極をはじめとするBPHの治療ソリューションの開発・マーケティングの革新的な存在となっています。iTind\*4による新たな治療ソリューションを提供することにより、オリンパスは泌尿器科におけるグローバルマーケットリーダーであり続けます。

呼吸器科

非小細胞肺癌発症数(NSCLC)(地域別)



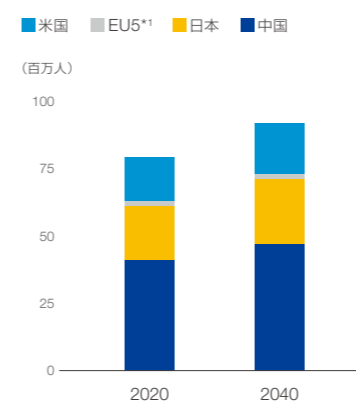
- 肺がんは、がんの中で死因第1位となっています。肺がんは、非小細胞肺癌(NSCLC)が85%を占め、15%が小細胞肺癌(SCLC)です。NSCLCの発症数は、2040年までに2020年の約1.5倍に増加すると予測されています(米国、EU5カ国、日本、中国)。中国は、今後最も急速に発症率が増加する見込みです。肺がんの主なリスク要因は、タバコの喫煙や受動喫煙への曝露、化学物質への曝露です。
- オリンパスのミッションは、肺がんの診断、ステージング等における医療水準を向上させることにより、肺がんの患者さんやそのリスクを抱える患者さんのアウトカムを改善することです。
- オリンパスの気管支鏡はステージング診断等においても使用されており、小型孤立性肺結節(SPN)の検出率向上に貢献しています。

気管支鏡件数

米国における増加率  
(2009年~2019年)\*2

+63%

慢性閉塞性肺疾患(COPD)有病者数(地域別)



- COPDは、肺気腫や慢性気管支炎と呼ばれてきた肺の病気の総称です。世界的に見ても、死因の第3位となっています。主な原因は、タバコの喫煙、受動喫煙、大気汚染、化学物質への曝露等です。
- COPDの有病者数は、2020年の約7,500万人から2040年には9,000万人以上に増加すると予測されています(米国、EU5カ国、日本、中国)。COPDの患者数は、中国が最も多く、かつ急速に増加しています。
- オリンパスのバルブ\*4は、肺気腫の治療において、薬剤効果がない、または肺縮小術や肺移植の手術が適用されない症例に対する治療、および気胸や肺手術後に発生する持続性の空気漏れの処置を目的に使われます。

\*1 EU5: 英国、フランス、イタリア、ドイツ、スペイン  
出典: Epi Database, Cerner Enviza。2022年6月にアクセス

\*2 出典: Compiled from Merative MarketScan Outpatient View database released in 2011 and 2021. MarketScan is a registered trademark of Merative in the United States, other countries or both.

\*3 出典: BPH: surgical management—Urology Care Foundation website: www.urologyhealth.org. Updated July 2013

\*4 2022年9月時点で医薬品医療機器等法未承認品です